

団体名	NPO法人マミーズ・ネット		活動タイトル	児童虐待を未然に防ぐための寄り添い型支援事業		
望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）				■ 活動風景		
<p>● 望ましい社会状況(ビジョン)</p>	<p>当団体の実現したいビジョンは「地域で支え合って子育てしていける社会の実現」である。子どもを授かったときから地域の中で親子が包摂され、安心感をもって暮らしていける社会めざす。 具体的には、乳幼児期から子育ての悩みについて同じ立場の人と気軽に相談できる機会が継続的に設けられ、適切なしつけの方法を知ること、虐待を未然に防ぐことである。また、保護者の気持ちに寄り添いながら虐待予防を推進できる支援者が地域に多く存在し、子育て家庭をエンパワメントできることである。</p>		<p>子どものしつけについて学ぶワークショップ「ママたちのしつけちえぶくろ」</p>			
<p>● 団体の社会的役割(ミッション)</p>	<p>当団体のミッションは、「地域で支え合って子育てできる環境を整えること」である。親子ともに自己肯定感を持ち、自分らしさを大切にしながら支え合って子育てできる社会を目指す。具体的には以下の取組を推進する。 1) 親同士が交流の中で子育ての喜びや悩みを共感しあい、共に支え合う場をつくる 2) 親子に寄り添いエンパワメントできる子育て支援者を地域に増やす 3) 男女共同参画の視点を持ち、「子育てを社会全体で支援していく」というメッセージを広く地域へ発信していく</p>					
<p>● 団体の活動基盤</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 人材確保と育成：活動基盤の強化として、事業の企画・運営・広報等ができる力を多くのスタッフが身につける。 ● 物的資源：事業を運営するための場や物品等を寄付や会費でまかなえるよう、主に企業会員を増やしていく ● 活動資金：オンラインも含めた寄付しやすい仕組みを整え、自主財源の比率を高める ● ナレッジ：どんな支援者でも寄り添い型支援を実施できるプログラムを完成させる。また法人の事業運営をマニュアル化し、スタッフのスキル向上につなげる。 					
■ 活動報告		■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)		2022/6/12 「地域で支え合う子育て」を啓発する講演会		
<p>本事業は児童虐待を未然に防ぐため、「寄り添い型支援事業の普及」と「地域で支え合う子育ての推進」を目的として下記4つの取組を実施した。 (1)子育て中の保護者向け虐待を未然に防ぐためのワークショップ「ママたちのしつけちえぶくろ」3回開催 →子どものしつけをテーマとしたワークショップ。参加者のべ37人。毎回定員を超えた申込あり、ニーズの高さを感じた。 (2)子育て支援者向け「寄り添い型支援研修会」2回開催 →保護者の主体性を尊重し、エンパワメントできる寄り添い型支援について理解を深める学習会。参加者のべ21人（予定定員の7割程度）。 (3)法人スタッフ向け 専門家によるスーパービジョン 2回開催 →講師：倉石哲也さん（武庫川女子大学文学部教授）参加者のべ67人 (4)地域へ向けた啓発講演会「子どもがすくすく育つ『頼り上手』と『手抜き上手』」 →講師：倉石哲也さん（武庫川女子大学文学部教授）参加者 約130人 上越地域だけでなく、県内外の子育て中の保護者および支援者が参加。感染症対策のため会場を定員の倍以上を収容できるホールに変更。計画当初より多くの人数を受け入れることができた。</p>		<p>(1)子育て中の保護者向けワークショップ「ママたちのしつけちえぶくろ」 →各回とも参加者全員が各項目で4段階のうち3段階以上達成。本WSを受講することで特に「これからの子育てに前向きな気持ちを持てる」ということに効果があった。 (2)子育て支援者向け「寄り添い型支援研修会」 →各回とも参加者全員が各項目で4段階のうち3段階以上達成。特に「保護者の気持ちに寄り添うことが児童虐待の予防的な役割を果たすと理解」という項目は9割が「4＝当てはまる」と回答。より多くの人に参加してもらうためには「寄り添い型支援」そのものの知名度をあげる工夫が必要。 (3)法人スタッフ向け 専門家によるスーパービジョン →各回とも参加スタッフ全員がSVを受ける前後で平均1段階以上のスキルアップを達成。 (4)地域へ向けた啓発講演会「子どもがすくすく育つ『頼り上手』と『手抜き上手』」 →アンケート回収107枚のうち、約8割が「子育ては一人でするのではなく、誰かを頼っていると思えた」と回答。地域で支え合う子育ての理解が促進された。 また、すべての取組の活動報告や成果をSNS等で発信することで、当法人や本事業をより多くの人に知ってもらうことができた。</p>				
■ 事業を通じて得られたノウハウ		■ 望ましい社会状況を達成するための課題		■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）		
<ul style="list-style-type: none"> ・(1)および(2)の取組では、参加対象者に一定の効果をもたらすことができる内容をプログラム化し、その効果を検証することができた。 ・(2)の取組では、市内外の子育て支援団体と、今後の支援に生かせるネットワークをつくる基礎ができた。 ・(3)の取組では、SVを受けるだけでなく自己分析シートを使って自身のスキルアップを実感することで、日々のよりよい支援につながることをスタッフ全員で再認識した。またzoomを使って事例検討やSV研修をオンラインで実施するスキルを身につけた。 ・(4)の取組では、情報収集の方法が多岐に渡る現代において、より多くの人へ広報をすることの難しさを実感し、市報、新聞、SNS、地元テレビ、ML、口コミなど様々な媒体を使った広報力を法人全体で身につけた。 		<ul style="list-style-type: none"> ● 切れ目のない支援のための「就学以降の家庭支援」 (1)の取組を実践する中で、就学以降の保護者も子どものしつけなど「家庭の中での子育て」について学んだり話し合ったりする機会を求めていることがわかった。これは新型コロナの影響でこれまでその部分を担っていたPTAや子供会などの地域活動がその役割を果たせていないためと思われる。切れ目のない支援のため、より広い対象に「寄り添い型支援」を広めること、そして子育てのスタート期を支える子育て支援者が就学以降も支援できるスキルを身につけていくことが必要である。 ● 持続可能な子育て支援を可能にするための活動基盤強化 地域で質の高い子育て支援を展開し続けるにあたり、当法人スタッフが力をつけていくことが重要。その際、支援スキルだけでなく、組織運営そのものについても意識できる人材を育成していくことが課題。 		<p>この1年間の活動を通じて</p> <p>上越地域で「児童虐待を未然に防ぐ」取組の基礎作り</p> <p>を達成しました。</p> <p>■ 受益者の具体的な変化（自由記入）</p> <p>本事業参加後のアンケートで多く寄せられた声＜抜粋＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ● また明日から子育てを頑張ろうと前向きな気持ちになれた（保護者） ● 怒ると叱るの違いがわかった。しつけの引き出しが増えた。（保護者） ● 寄り添うことでその人の力になる。現場で実践したい（支援者） 		